

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和5年11月22日第5号



なぜ探究的な学びが必要なのでしょう。

令和5年度教育課程研究協議会・授業公開校の実践から

私たち教師が「いいな！」と思う授業実践には、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、子どもが生き生きと学習に取り組む姿が共通にあります。子どもが主体的に追究していくためには「問い」や「願い」があることが大切です。そして「問い」や「願い」が連続していくことで学びが深まっていきます。このことは、探究的な学習の過程と言い換えることができます。

10月に開催された北信地区教育課程研究協議会では、公開してくださったすべての学校の単元、授業に、この探究的な学習の過程がありました。本稿では、探究的な学習の過程に必要な①問いや願い、②問いや願いが連続していく場面に焦点を当て、3校の実践を紹介します。

飯山市立常盤小学校 小林 万結先生 4学年社会 「自然災害からくらしを守る」

資質・能力を高めていく子どもの姿

地域で起こりうる災害を想定し、自分や家族にとってよりよい避難の仕方を考えたり、選択・判断したりする姿



✧ 主体的に追究していく問いや願い ✧

「自分や家族の命を自然災害から守るためには、どのような備えをすればよいのだろう？」

✧ 問いが連続していく場面 ✧

○対話を通して様々な視点に気付いたり、思考を深めたりする場の設定の工夫

マイ・タイムライン
(防災行動計画)
の見返し

「自分や家族の命を守るためには、何かが足りない気がする」というSさんの発言から、「自分や家族の命を守れる、もっといいマイ・タイムラインにするにはどうしたらいいのだろう」という問いがクラス全体に生まれました。

自分が大事にした
こととその根拠を
伝え合う時間

友達との対話を通して、Sさんは「様々な立場の人を想定して計画する必要があること」「住んでいる地域により避難の際に注意する点が変わること」などに気がつき、マイ・タイムラインを更新していきました。

自分の学びの振り返り

Sさんは「友達の意見を聞いて不安が減ったし、自分の命も守れそう」と振り返り、自分や家族にとってのよりよい避難の仕方について選択・判断しました。また、「避難完了後の行動についても考える必要がある」などの友達の新しい意見を受けて「まだ少し怖さが残っている。もっと考えたい」という次の時間への願いももつことができました。

<本号でお伝えする内容>

☆教育課程授業公開校の実践から

☆第3回教師力向上研修から

「学びの改革フォーラム」のお誘い

頁

① ②

③

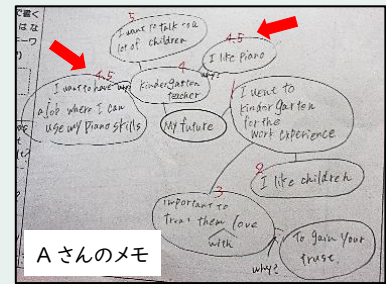
添付

資質・能力を高めていく子どもの姿

自分の将来について、話す内容を整理して、自分の考えや気持ちを話す姿



- ✧ 主体的に追究していく問いや願い ✧
「交流のある大学生に自分の将来について伝えたい」
- ✧ 問いや願いが連続していく場面 ✧
○ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を
明確にした言語活動の繰り返し



自分の考えを形成し、表現する言語活動と中間指導

友達に「I went to a kindergarten. I like children. I learned it's important to treat them with love. I want to be a nursery school teacher.」とAさんが考えを伝えたことを受けて、白鳥先生は、職場体験学習と自分の将来の夢をつなげて、理由を詳しく語ったBさんの姿を取り上げ、「内容のつながりが分かりやすいね」「話す内容の順番も工夫しているね」と認め、相手によりよく伝えるために、自分の発話を見直す視点をクラス全員と共有しました。



伝える内容の推敲とリトライ

Aさんは自分の考えをまとめたメモに、話す順番として、4番と5番の間に新たに「4.5」と数字を付け加えました（写真内矢印）。その後、Aさんは、「I want to be a nursery school teacher. I like piano. I want to have a job where I can use my piano skills.」と加え、友達に伝えました。

授業後、Aさんは「なりたい職業のあとに理由をしっかりと話す、自分の考えが相手にはっきりと伝わるかなと思いました」と、文の順番を変更したり、内容を付け加えたりした理由を話していました。

※英語原文まま

資質・能力を高めていく子どもの姿

どんな台形でも、公式を用いて面積を求めることができるか、台形の構成要素に着目し公式を活用したり、台形の公式から、三角形や平行四辺形の公式を統合的に捉えたりする姿



- ✧ 主体的に追究していく問いや願い ✧
「平行四辺形、台形、ひし形などの面積はどのように求めたらよいのだろうか」
「それぞれの図形にも、公式はあるのだろうか」
- ✧ 問いが連続していく場面 ✧
○ 友や既習内容とつながりながら理解を深める場面設定

ICTを活用した図形の操作

図形作成ソフトを用いて、台形を変形させる様子を観察できるようにすることで、子どもたちは「台形の面積を求める公式は、どのような台形にも使えるのだろうか」という問いを持ち、台形の定義や平行線と高さの関係に着目して追究していきました。



既習の内容と関連

既習の内容を関連させて考えるため、台形を変形させていくと、平行四辺形や三角形になる瞬間があることから「台形の面積を求める公式は、平行四辺形などの他の図形にも使えるだろうか」という問いも生まれました。そして「三角形は上底の長さが0のとき」「平行四辺形は上底と下底の長さが等しいとき」と、それぞれの公式との関連を見いだす姿につながりました。

日頃の指導について振り返る

「特別支援教育」って何？～教師力向上研修Ⅲから～

10月24日(火)に初任者研修「教師力向上研修Ⅲ」が行われました。今回は、特別支援教育の講義・演習と自己課題の更新に向けてのグループ討議が行われました。

【研修のキーワード】

- 「困っているのは子ども」、「目に見えにくい部分を見極める」
- 「変わるのは誰か、変えるのは何か」
- 「どの子ども『同じ学び方』から、どの子ども『自分らしく学ぶ』へ」
- 「特別支援教育は、通常の学級も含め、『全ての子ども』に必要」

今回の研修を通して、校種が違って、目の前の子どもに寄り添うことの大切さを先生方は再確認することができました。また、協議を通して自己課題を解決する過程で、悩みながらも実践し、振り返り、改善していくとする営みは、自分自身の成長につながり、さらには、目の前の子どもたちの成長にもつながると思います。ぜひ、具体的な支援や実践を校内の先生方と一緒に進めていきましょう。



「子どもたち全員が自分で追究できるように、具体的な学習課題を提示するように工夫しています。」
「発話が苦手な子どもが意思表示しやすいように、音声アプリを使用しています。」

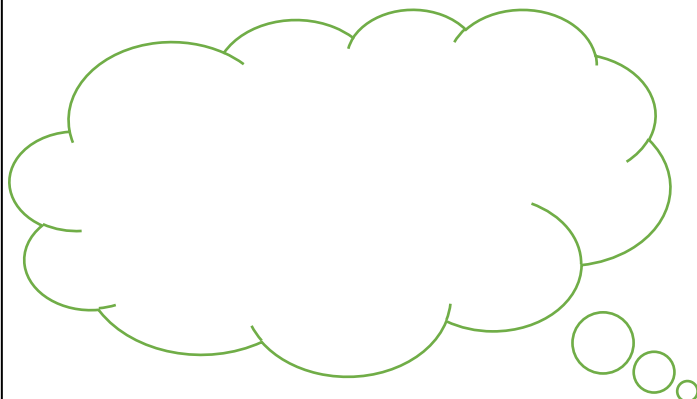
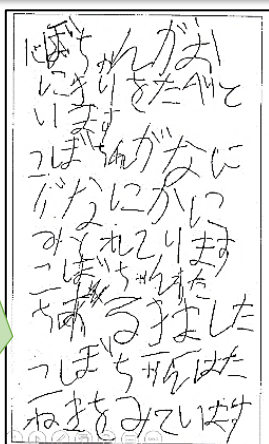
【研修のまとめより】

- ・忙しい日々の中、子どもの表面ばかり見て、その背景を考えようとしないうちがいた。どの子にも困難さやつまずきがあるので、「どうしてできないのか」ではなく、「どうしたらできるようになるか」の視点で私たちがどのような支援や工夫ができるかを考えて子どもに接していきたい。
- ・教師が行う個別の支援について、「本人が納得しているか」という視点を学んだ。「困った子」ではなく「困っているのは子ども」だというマインドで支援を見直していきたい。
- ・他の先生や主事の先生のお話を聞く中で、不安感や困り感を抱えた子どもに対してどんな支援や手立てが考えられるのか、その視点について学ぶことができた。自己課題について、さらに取り組んでみたいことが増えた。少しでも子どもが、「できた!」と思えるようにしたい。
- ・自己課題や同じグループの人の実践について共有する中で、校種は違っても共通の部分がたくさんあることに気づいた。特に ICT を使って見本をいつでも見られるようにしたり、大きさや色、フォントを工夫した文字を入れたりするなど配慮されている部分があり、これからの授業に生かせると感じた。
- ・特別支援教育は、特別支援学校や特別支援学級で行うものといつの間にか頭の中で決めつけていた。特別支援教育は、通常の学級も含め、全ての子どもたちに必要であること、全ての子どもがもてる力を最大限に発揮するための手段であることを学んだ。

問い

子どもが「書けました。読んでください。」と持って来ました。

先生方なら、この子にどのような声をかけますか？どのように支援しますか？



これからの 信州教育を 考える

申し込みは12月1日(金)までとなっております。
11月10日付通知により、北信教育事務所まで
お申し込みください。

北信地区申込先

hokushin-s@pref.nagano.lg.jp

(担当:粟津原弘文)

学びの改革 フォーラム ながの

1.26 Fri

講演

信濃教育会 前会長

後藤正幸 氏

「信州教育について」



文部科学省初等中等教育局
学校デジタル化PTリーダー

武藤久慶 氏

「GIGAスクール構想に
おける新たな学び」



実践発表 学びの改革パイオニア校

ポスターセッション 中核教員研修参加者

総合教育センター講堂

10:00~16:00

長野県教育委員会学びの改革支援課